令和５年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立　　合馬　　小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和５年４月１８日（火）に、６年生を対象として、「教科（国語、算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

１．調査の目的

⑴　義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

⑵　学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

⑶　そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

２．調査内容

⑴　教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）
①　身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ②　知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

⑵　児童質問紙調査

児童質問紙調査
○　学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※本校の６年生については、単学級ですので、個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

３．教科に関する調査結果の概要

(1)　全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.4	59
全国	9.4	67	10.0	63

⑵　本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な 傾向や特徴など	平均正答率は、全国平均を若干下回っている。記述問題に対する正答率は、全国平均を上回っているが、「言語の特徴や使い方に関する事項」等、基礎基本に関する問題の正答率が全国平均を下回っている。 また、正答率の分布から、個人差が大きいと言える。
	よくできた問題	「書くこと」や「読むこと」の正答率が全国平均を上回った。自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫したり、目的を意識して要約する問題の正答率が高かった。
	努力が必要な問題	「言語の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」の正答率が全国平均を下回った。

算数	全体的な 傾向や特徴など	平均正答率は、全国平均を上回っている。領域的に見ても、すべての領域で全国平均を上回っていた。特に、記述式の問題に対する正答率が高かった。 正答率の分布から、個人差が大きいと言える。
	よくできた問題	「数と計算」「データの活用」領域の問題については、全国平均を上回っていた。「志向・判断・表現」の力が求められる問題についても、正答率が全国平均を上回った。
	努力が必要な問題	「図形」領域の三角形の意味や性質を問う問題や、「変化と関係」領域の百分率で表された割合を問う問題の正答率が全国平均を若干下回った。

４．学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析
・「早寝・早起き・朝ごはん」に関する問いへの肯定的な回答が１００％であった。基本的な生活習慣の定着が進んでいる。 ・「普段の生活で幸せな気持ち」の問いに対する肯定的な回答は１００％、「自分にはよいところがある」「先生はよいところを認めてくれる」に対してほとんどの児童が肯定的な回答ををしていることから、児童達は自己肯定感を高め、楽しい学校生活を送っている。 ・「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」「「地域・社会をよくするために何かしたいと思う」「「人の役に立つ人間になりたい」に対する肯定的な回答は１００％であった。しかしながら、「人が困っているときに進んで助ける」に対する肯定的な回答は、全国平均を若干下回っている。よりよい社会や人間関係の構築を願い、役に立ちたいという気持ちは高まっているが、行動に移すまであと一歩という状況である。 ・「自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動にとりくんでいる」の問いに対する肯定的な回答は１００％であった。話し合い活動を充実させ、協働的な学習が進んできている。 ・読書に関しては、「読書が好き」「図書館にどれくらい行くか」の項目について全国平均を大きく上回っている。しかしながら、「読書の時間」については、全国平均を若干下回っている。

５．調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

①　教科に関する取組

◎朝学習や授業において、繰り返し学習やAIドリル等を活用して、基礎基本の定着を図る。学習の定着の個人差を解消するため、Ｔ．Ｔ．の充実や個別の指導を計画的に行う。
◎主題研究「自分の思いや考えを伝え合うことが楽しくなる、少人数学習指導の工夫」を推進し、各学年で児童が主体的に学びあえる授業づくりについて研究・実践を積み重ねる。また、情報教育を日々の授業に位置づけ、推進を図る。

②　家庭生活習慣等に関する取組

◎「１０分×学年＋１０分」を家庭学習の目安として毎日宿題を出すとともに、学年に応じて「自主学習ノート」を活用し、予習や復習にとりくむよう家庭と連携して指導を行う。
◎テレビゲームやスマートフォン等の適切な付き合い方やインターネットトラブルに関する啓発を行い、家庭との連携を図る。